

北海道
府

札幌案内

特
6

023194-000-8

特53-641

札幌案内

樫山 居士/著

M25

ADC-0031



北海道首府

札
幌
案
内

北海版摺彩巴人密畫

北海

道物

產共

進

會

々

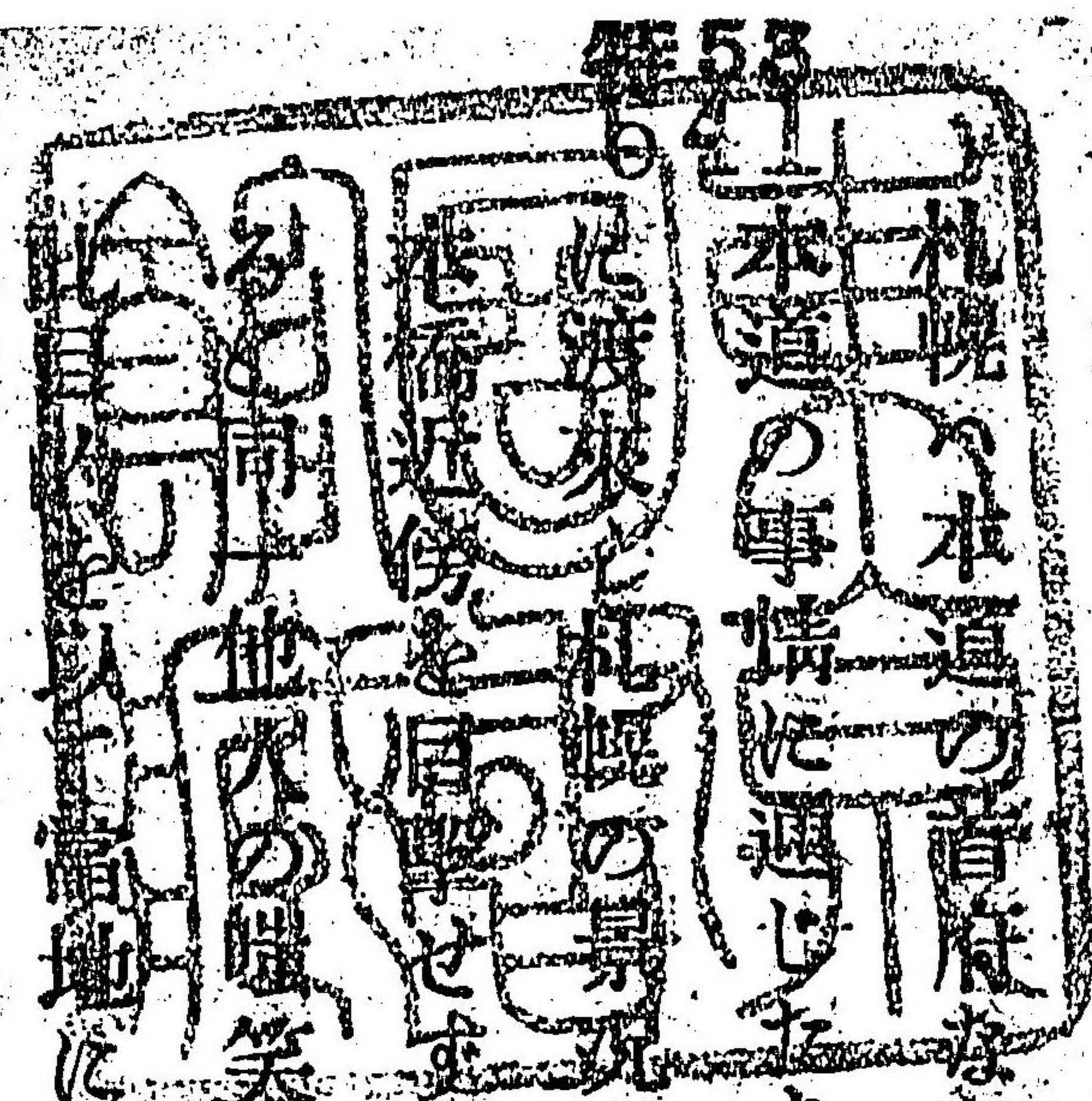
場

之

聚文堂

發兌書林

札幌案内序



札幌の北海道の首府なれば其事情を詳にせざる
 本道の事情に遇じたりと謂ふべからず内地より本道
 此海來と札幌の景況を知らざれば恰も東都に遊び日
 世橋近傍を目前と爲して東京見物を爲したりとて誇
 らしむる他大の嗤笑となるべし内地よりの旅客概ね
 一高地に來たるも新開の殖民地にて舊知
 已進は更になく諸般の事物他人の教を得ざれば之を
 知悉するに由なければ空しく旅舎の滞在を延じ身自

ら其實況を探るの不便ありしが頃日友人樺山居士此
不便を除かん爲め札幌案内を著し將に上梓せんこと
來て予に序を乞ふるを以て親友の囑托黙し難く之を
一讀せしに當地の事情細大洩す事なく簡易の文もて
正確の眞況を掲載したれば札幌へ來る者は勿論遠隔
の地に在る者と雖苟も本邦の富源北門の鎖鑰たる本
道に注目する人士に一臂を與へたる者と謂ふべし其
札幌を益し北海道を益し將た大日本帝國を益するこ
と蓋し鮮少に非るべし只予は本邦人が早く本道の景

況を知悉して本書の如きは一日も速に紙屑籠中に埋
没せられんことを望む而已

明治辛巳夏七月於札幌客舎

錦村 主人識

緒言

- 一 卷中の紀事意匠拙劣文辭亦鄙野なれども正確の眞況を掲載したれば看客慢に拙文を咎る勿れ
- 一 卷中の紀事勉めて正確を期すれども輕便を旨とし小冊子となしたるか故に當地の眉毛竅穴を提將し看客に示すこと能はず頗る意恨なれども後日再び詳細の案内記を發兌すべければ看客其概畧に過ぐるを咎る勿れ若し夫れ紀事にして誤謬あれば切に識者の叱正を望まんとす
- 一 著者本編を稿する三個の企望を懷けばなり一つは將に札幌に來遊せんとする者の爲にし二は内地の人士に當地の光景を知らしめんとする老婆心に外ならず
- 一 卷中當地著名の商店を掲載せん積りなりしか小冊子なれば諸々記載すると能はず若し一を記して他を記せざれば障害を與ふる

と一様なるを以て悉皆記載せざるとなしたるは札幌案内の名に悖るか如きも止むを得ざるに出でしとなれば看客幸に諒焉

一 卷中藝娼妓の事を掲げたるは紳士淑女の齒せざる所著者も亦之を記すは本意に非るも這般動物と雖當地の繁昌を造出する一分手なれば之を記せざるに於ては當地繁昌の景況を損せんことを恐れ斯くは掲載せしむなり

編者謹誌

札幌案内目次

- 第一 札幌市街の位置
- 第二 札幌市街の區劃
- 第三 札幌市街の人口及其狀態
- 第四 札幌市街の氣候
- 第五 社寺
- 第六 官衙
- 第七 學校
- 第八 銀行
- 第九 病院
- 第十 會社及製造所
- 第十一 協會俱樂部及新聞社
- 第十二 遊園地

- 第十三 博物館
- 第十四 勸工場
- 第十五 割烹店附藝妓
- 第十六 劇場
- 第十七 遊廊
- 第十八 旅人宿
- 第十九 諸物價
- 第二十 農商工賃錢

札幌案内目次終

札幌案内

襟山居士著

○第一 札幌市街の位置

札幌市街は北緯四十三度三分東經百四十一度廿三分即ち北海道石狩
 網走郡の北部に在りて極東は苗穂村極西は山鼻村極南は南七條極
 北は札幌村を以て境とす西方には圓山及び藻巖山等ありて又天狗山
 を負ひ豊平川市街の南東を流れ末流は石狩川に會す支流なる創成川
 は其初め札幌市街を設くる時堀割たるものにて市街の南端より正北
 の方向にて市街を貫流し夫戸新道に沿て流れ又其支流なる新川も創
 成川と同方向にて市街を貫流す
 市街の周圍は概ね田畑及び果木園にて只豊平川の兩岸と琴似街道に
 沿ふ北方の部分に樹木の鬱蒼たる處あれども他は皆肥沃の既墾地な
 り市街の西部なる山鼻村は北海道屯田兵の村落にして田園大に整頓

し耕種園藝物業甚だ盛なりと云ふは其の証なりと田園大ニ盛

札幌市街の區劃

札幌市街は大通一路幅六十間を以て南北に別ち創成川を中央として東西に別ち北は大通より一條三條と數ハ風條に至りて盡き南は七條に至りて終焉又創成川に併行する東西の町を南北各條何町目と稱し東は四町目にて止み西は十町目迄止まるも十町目以西は其區劃の存するのみにて概して家屋なき唯北一條より五條迄の間西十二町目に炭礦鐵道會社員の邸宅あるのみ札幌の街衢は極めて端正にして路幅廣武區劃の井然たること其盤の目に彷彿たり道路は清潔なる所もあれと概して汚穢の方なり蓋し札幌には馬匹甚だ多く荷物運送は皆馬を用るか故に糞尿爲に堆く惡臭紛々鼻を衝て入り處慣れざる者には嘔吐を催さしむる程なり殊に大通の如きは「町目より九町目に

至る間雜草繁茂し夏期牛馬を放牧す蓋し火防線として存置するなるべしと雖も市街の中央に草原あるは随分不体裁にして且土地利用の理にも戻れるが如し札幌へ始て來りて者は皆大通を見て牧場なるやと問ひ或は燒跡ならんと疑はるとも無理ならぬ事かかし

大通以北は官衙學校會社製造所等の煉瓦或は木造の大厦高樓巍然として雲際に聳へ輪煥美を輝かし田夫傭翁は此光景を見て眩目する計なり大通以南は人家櫛比し商業の取引極めて頻繁にして日出より夜半まで人馬絡繹絶ゆる間な殊に南一條二條通西一二三町目間は大家高樓叠軒を並列し豪商大賈の居宅のみなりしが明治二十五年五月四日南三條西四丁目より失火し折節南風激烈なりし爲め僅々五時間内に南三條北側南二條南一條及び大通南側の二三町目を燒拂ひ戸數八百八十戸空しく烏有に歸したり燒失せし建物の中主なるものは官衙には札幌郡區役所札幌警察署札幌地方及區裁辨所其餘餘

し耕非園藝物業甚盛夫は別荘の林藪なりて田園大に盛なり
○第一 札幌市街の區劃
札幌市街は大通（路幅六十間）を以て南北に別ち創成川を中央として

東西に別ち北は大通より一條三條と數ハ派條に至りて盡き南は七條
に至りて終る又創成川に併行する東西の町を南北各條町目と稱し
東は四町目迄で止み西は十町目迄で止むるも十町目以西は區劃
の存貯場のみにて概して家屋なく雖北一條より五條迄の間西十二町
目に炭礦鐵道會社員の邸宅あるのみ札幌の街衢は極めて端正にして
路幅廣く區劃の井然たること基盤の目に彷彿たり道路は清潔なる所
もあれと概して汚穢の方なり蓋し札幌には馬匹甚た多く荷物運送は
皆馬を用るか故に糞尿爲に堆く惡臭紛々鼻を衝て入り處慣れざる者
には嘔吐を催さしむる程なり殊に大通の如きは「町目より九町目に

至る間雜草繁茂し夏期牛馬を放牧す蓋し火防線として存置するなる
べしと雖も市街の中央に草原あるは随分不体裁にして且土地利用の
理向も戻れるが如し札幌へ始て來りし者は皆大通を見て牧場なるや
と問ひ或は燒跡ならんと疑ふとも無理ならぬ事か
大通以北は官衙學校會社製造所等の煉瓦或は木造の大厦高樓巍然と
して雲際を聳へ輪煥美を輝かし田舎翁は此光景を見て眩目する計
なり大通以南は人家櫛比し商業の取引極めて頻繁にして日出より夜
半まで人馬絡繹絶ゆる間なき殊に南一條二條通西一三三町目間は太
家高樓叠軒を並列し豪商大賈の居宅のみならず明治二十五年五月
四日南三條西四丁目より失火し折節南風激烈なりし爲め僅々五時間
内に南三條北側南三條南一條及大通南側の二三町目間悉く燒拂ひ戸
數八百八十七戸空しく鳥有に歸したる燒失せし建物中主なるものは
官衙に在りは札幌郡區役所札幌警察署札幌地方及び區裁辨所其他餘處

學校女子小學校幼稚園第二十國立銀行支店北海銀行屯田銀行東京廣
彌生樓京華樓吉田屋立花劇場勤工場聚文堂玉振堂自治堂日盛館梶井
北明山二札幌の四活版印刷所土屋醫院井術吳服店同小間物店東壽
北海道毎日新聞社等の壯麗なる建物悉く灰燼と變じたりしかばさし
も繁華の市街も一時は寂寥たる有様となりたるも各戸競て新築に取
掛りたれば既に竣工せし家屋寧からず舊觀を恢復するの日近にある
べし創成川以東は小賈の住宅のみなれば商業取引も從て活潑ならず
畧言すれば南東部は細民の巢窟にて南西部は紳縉の居室多し

○第三 札幌市街の人口及び其狀態

明治廿四年四月の調査に依れば札幌現住戸數は六千六百七十九戸に
して人員は男一萬二千九百七十五人女一萬三千三百三十人合計二萬四
千三百五人ありて一戸平均二・五人の割然れども札幌の細民は四月
より九月迄の間は鯨鱈鮭等の漁業に従事せんが爲に各地方に向て出
稼する者甚だ多きが故に夏時と冬季とは現在人員に大差あるべし殊
に新開の殖民地なるが故に一大事業を企てんとし且に飄然として來
り其目的の齟齬するより失望落膽夕には又飄然として立去る者其數
極めて多きが故に人情も自然輕薄に流れ五倫五常の道も殆んど地を
掃ふ計りなり然れども一家を保ち商業其他の事業を經營するものは
隣佑相頼護し慶賀悲歎も與に爲さんと誓ふ輩も多しと聞けと往々隣
佑の甘言に欺かれ一敗地に塗れし者亦寡からずと云ふ内地人の當地
に來りて商業其他の事業を經營せんとする者は注意に注意を重ね彼
の危險手段を用ひ冒險企圖を爲すの奸奴が甘言を輕信し迂濶に這般
人物の仲間入をなして瞞着せらるる事なく後日失敗を蒙るる様必
然と云ふことにはこそ

札幌は新開の殖民地なるが故に一定の言葉なく東京語を使ふ事あり

は上方訛言を出し、彼が天津輕より薩摩の躰まで、東本陣中の訛言は彼
 地方にて喃々語火遇へるも概して上等社會は東京語を使用し、下等
 社會は青森秋田仙臺北越邊りの語を專らし、右奥州各縣本調子、
 へ懸け最も可笑し、調子にて、
 舊土人アイヌの札幌に住居する者十有餘名、多きは豊平河鴨、小屋を
 營み住す此等の土人は皆能く日本語を使用し、稍野蠻の境界を脱離し
 たり

○第四 札幌市街の氣候

札幌は北緯四十三度三分東經百四十一度二十三分に位するが故に氣
 候寒烈、嚴冬の候積雪は團々として地上に堆き、玄陰凝結して、玻璃板を
 敷くが如し、北風吹雪を飛ばし、萬物を肅殺するの冬時に在ては、醬油石
 炭の類亦凝結し、朔風凜々たる屋外にて、華氏寒暖計の零下二度に及
 ぶことありされども、東風脈々花信を報し、黃鳥啾々春陽を咲し來るの
 時は、圓山藻巖、山天狗山等の諸山漸次に雪の製衣を脱ぎ、田園には勁草
 綠芽を萌出し、初めて區民の眼睛に綠色を映せしむ、五月頃に至り、梅も
 櫻も桃も一時に開發して、互に春榮を競ふ様、内地にては夢にたる見さ
 る所なり、夏期炎熱熾なる時、雖も煩熱堪へ難きは、只正午頃より四時
 頃迄の間にして、夕陽西山に傾き、亂鴉啼を求むるの時に至れば、涼風肌
 に徹し、袷衣に薄きされは、後き難き程なり、誠に冬は地獄なれども、夏時
 は極樂土の思ひろせらる

今札幌二等測候所の觀測表に依り、明治十年以後氣候最高低及び平均
 温度表及び霜雪の初降并に最終の月日とを左に記さす

- 最高温度 攝氏三四、一 明治十六年八月廿五日
- 最低温度 攝氏零下二五、六 全 十八年三月廿八日
- 霜初降 明治廿三年九月九日

は上方訛言を出し、其の津軽より薩摩の躰まで、本國中の言語は、概して南方にて喃々語、又遇へるも概して上等社會は東京語を使用し、下等社會は青森秋田仙臺北越邊の語を、或は石炭田の語を調子、鼻へ懸け最も可笑しき調子にて、舌り居れり。舊土人アイヌの札幌に住居する者も、存餘各多きは豊平河内小屋を營み住す此等の土人は皆能く日本語を使用し、稍野蠻の境界を脱離したり。

○第四 札幌市街の氣候

札幌は北緯四十三度三分東經百四十一度二十二分に位するが故に氣候寒烈、嚴冬の候積雪は團々として地上に堆く、立陰凝結して玻璃板を敷くが如し、北風吹雪を飛ばし、萬物を肅殺するの冬時に在ては、醬油石炭油の類亦凝結し、朔風凜々たる屋外にて華氏寒暖計(○)は二度に及ぶことあり、されども東風脈々花信を報し、黃鳥階々春陽を啼し來るの時は、圓山藻巖山天狗山等の諸山漸次に雪の襲衣を脱し、田園には勁草綠芽を萌出し、初めて區民の眼睛に綠色を映せしむ。五月頃に至り梅も櫻も桃も一時に開發して互に春榮を競ふ様、内地にては夢にたも見ざる所なり。夏期炎熱熾なる時と雖も、煩熱堪へ難きは、只正午頃より四時頃迄の間にして夕陽西山に傾き、亂鴉啼を求むるの時に至れば、涼風肌を徹し、袷衣に誘ふされば、後き難き程なり。誠に冬は地獄なれども夏時は極樂土の思ひらせらる。

今札幌一等測候所の觀測表に依り、明治十年以後氣候最高低及び平均溫度、及び霜雪の初降并に最終の月日とを左に記さる。

- 最高溫度 攝氏三四、一
 明治十六年八月廿五日
- 最低溫度 攝氏零下二五、六
 全 十八年三月廿八日
- 霜雪初降 明治廿三年九月廿日

最新集録

明治廿三年十月五日

平均霜日

温刃廿二日

全十八年十月五日

平均霜日

温刃三四日

明治十六年十月廿五日

平均終雪日 温刃の終雪の日の日数は五月二十日

平均終雪日 温刃の終雪の日の日数は五月二十日

平均降雪日 温刃の降雪の日数は五月二十日

平均降雪日 温刃の降雪の日数は五月二十日

札幌青森新潟温度平均比較表

一月より五月迄の平均温度	札幌	青森	新潟	新潟より青森より
	攝氏六・三	攝氏八・三	攝氏二・九	低
				五・七
				低
				三・〇

(備考)攝氏温度より華氏温度を知らんと欲せば

$$\left(\frac{\text{攝氏温度} \times 9}{5} \right) + 32 = \text{華氏温度}$$

の公式に依るべし

第五 社寺

官幣小社札幌神社は大國魂命大己貴命少彥名命を祭る札幌鎮守の神社なり祠は南一條通の西端圓山村に在り札幌より里程凡二十町にして一つの小坂あり之れを登れば華表を見る猶過ぎて行くこと三町餘始めて本社に達す社側に神饌所糧舍社務所及び神官官舎あり社内は樹木鬱鬱清雅幽邃なり然れども冬時は積雪行路を塞ぎ參詣に不便なるか故に遙拜所を南一條東三丁目に設く祭禮は毎年六月十四十五十六の三日を以て執行す此日は各戸皆門戸を閉して其業を休み神酒を酌みて祝宴を張る十五日は官衙學校も亦其業を休み家を旭旗を翻し

夜に入れは球燈を點し市内は勿論近郷近在より入り来る老若男女は各競ふて美衣を飾り歩行躡躑神社に詣つる者引も切らず市中雜沓せざる所なし遙拜所境内には十二座の踊及び手踊等あり又其近傍には諸興行ありて其喧擾の有様筆紙の盡すべき所にあらず又中嶋遊園地は必らず競馬會の催ありて一層の賑を添ふるものなり秋田の三吉神社は南一條西八丁目にありて秋田の三吉神社を遷座したるものなり祭日は五月八日にて秋田踊南部踊及び津輕踊の所謂盆踊等ありて頗る賑々し

金刀比羅神社は南五條西四丁目薄野廓内に在り縁日には野臺店境内に并列し雜沓謂はん方なし
東本願寺別院は當地創設の寺院に眞宗大谷派に屬し明治三年を以て山鼻村に建立せられしものなり
西本願寺別院は明治十四年南四條西五丁目に建立せられ又大谷派に

屬す

曹洞宗中央寺は南三條西九丁目に在り元此寺は僧萬宗が明治八年南二條に小教院を開基し其後中教院と改稱したりしが明治廿三年寺刹を新築し名をも中央寺と改めたりなり
眞言宗成田山新築寺は南七條西三丁目に在り下總成田山の支寺なり境内廣潤にして割烹店などあり毎年七月十五日を以て境内に於て盆踊を催し雜沓甚し此他日蓮宗北海寺は南二條東四丁目浄土宗新善光寺は南六條西三丁目に在りて何れも銳意布教に従事せりと云ふ
(因云南三條西六丁目札幌基督教會ありて牧師等熱心よ宗教擴張に盡力せるを以て信仰者漸次に増加し神佛兩教を凌駕せんがまざる有様なり)

○第六 官衙

北海道廳は北三條西五丁目と七丁目とに跨り煉瓦造の五層樓にして

規模宏壯高く雲際に亢突し札幌市中第一の美觀なり構内地廣く築山池等ありて庭園の美亦他に其比を見ず

道廳の行政事務を別て三部とし部を別て課とし理事を以て部長とし課長は十四人ありて庶務郡治教育警保殖民地理土木農商水産林務主計財務租稅用度等の諸課を分掌す長官以下雇員に至るまで三百有餘の官吏ありて恰も一省の觀あり其版圖の廣豁九州及び四國の面積を三倍したる面積即ち六千九百十八方里（内譯北海道本地五千八百六十方里千島三十二島千三十三方里五分禮文島八方里四分利尻島七方里四分奥尻島九方里）人口四十餘萬人を支配す屯田兵司令部は北三條東一丁目に在り北海道五大隊の屯田兵を總轄し併せて軍事を參謀す建物は木造洋館にして外觀美麗ならず屯田兵の創設は明治八年にして二十三年迄に召集したる総戸數二千九百五戸人口一万三千四百三十三人にて既墾地四千二百十八丁八反ありと云ふ

屯田歩兵第一大隊本部は大通西十一丁目に在り札幌近傍の屯田兵即ち琴似村山鼻村新琴似村篠路村室蘭村の五中隊を管轄す建築は木造洋館にして壯觀ならず
札幌地方裁判所同區裁判所及び札幌登記所は北三條西三丁目に在り
此が本年五月の火災に類焼せしを以て札幌農學校の演武場を借受け事務を取扱へり

札幌外九郡區役所は焼失後北一條西三丁目に移り札幌區及び札幌石狩厚田濱益千歲空知樺戸雨龍上川夕張等の十郡を管轄し行政事務を取扱ふ

札幌警察署は北三條東二丁目に在り郡區役所と同じく札幌區及び札幌郡以下十郡の警察事務を取扱へり

此他公訟役場は大通西四丁目札幌一等測候所は北五條西八丁目札幌郵便電信局は南三條東二丁目に在り

札幌農學校は北二條西一丁目に在り官立學校にして明治八年に創立せらる農學科工學科兵學科及び豫科の四科あり農科卒業生は農學士の稱號を得明治十三年以降百二十餘名の農學士を出し現今學生生徒の員數三百有餘名ありと云ふ修業年限は農學科工學科各四年（前三）年學術後一年實務練習）豫科五年にして兵學科は農學科第三學年の課程を卒へたる者にして屯田兵士官出身を志願する者を養成す

北海道尋常師範學校は廳立にして南二條西五丁目に在り明治十六年の設立なり修業年間は四年にして卒業生は北海道各地方小學校の訓導に採用せらる現今の生徒百名許あり

全校に附屬する高等尋常簡易小學校あり高等科は生徒百名許尋常科百六十名簡易科八十余名あり

創成學校は區立にて火災後元第一分校なる南三條西七丁目も假學校を設け女子小學校は北海道廳南三條板庫に在り札幌市中有名の小學校にも男女生徒殆んど千名あり

私立北海英語學校は北三條西一丁目に在り英學漢學數學の三科を教授し札幌農學校豫科へ入學志願の者を教授する所なり當時生徒二百餘名あり

私立敬業館は南三條西七丁目に在り英漢數の三科を教授し傍ら高等尋常小學校を置き生徒二百五十餘名ありて中々盛大なりと云ふ

私立スミス女學校は北一條西六丁目に在り元と米人スミス氏の監督する所なりしが歸國以來某氏代て監督す目下女學生徒三十餘名ありて和英普通學を教授せり所謂耶穌學校なり

私立育成學校は南三條西五丁目に在り英漢數の三科を教授し傍ら高等尋常小學校を設け生徒五十餘名あり

私立札幌藥學校は北一條西八丁目に在り専ら藥劑學を教授す生徒二

十名に過ぎず
 此他私立學校にて札幌簿記專修學校(南二條西五丁目)獨逸學講習所
 (北二條西七丁目)共立學舎(大通西五丁目)時習館(南二條西六丁目)
 進取學舎(南四條西二丁目)漢學遷喬舎(南五條西五丁目)北鳴學校(北八條西二丁目)及び札幌産婆學校(南二條西五丁目)等あり

○第八 銀行

第二十國立銀行小樽支店出張所は南二條西三丁目在り(小樽支店は後志國小樽港町に在り)資本金二万圓なるも信用厚く手廣く取引を爲し居れり

北海銀行は大通西三丁目に在り資本金十方圓金錢の出入極めて頻繁に之を利益配當も多きが故に人氣受至て宜しく支店を東京に設く三井銀行札幌出張店は南二條西二丁目在り明治二十三年以降官吏は

現金出納を取扱ふこと能はざることを以て北海道廳の現金は悉く全行へ預け置くこととなりしか故に札幌本金庫と稱せり是を以て支拂引出の時其他各商人の振出し振込み拂戻し預入れなど業務頗る頻繁なり

屯田銀行は大通西二丁目に在り資本金二十万圓にして單に屯田に關する事業のみを取扱ふ

○第九 病院

札幌公立病院は北二條西八丁目に在り斜に北海道廳に對峙し木造の洋館にして壯觀の建物なり周圍には蒼々たる樹木繁茂し空氣の流通亦極めて宜して院長獨逸人グリンム氏副院長關場醫學士を始とし其他有名の國手之を補助し丁寧親切に患者を診察す

此他私立にて濟生醫院(大通西三丁目)土屋醫院(南四條西二丁目)等

あり

青瓦

○第十 會社及ひ製造所

北海道炭礦鐵道會社は北五條西三丁目札幌停車場の前に在り探炭及ひ運輸を業とす資本金六百五十萬圓の大會社にて帝室基本金も加り時々社内紛紜あるも將來多望の一大會社なり炭坑は幌内郁春別歌志内及ひ夕張等に在りて採掘の石炭品質極めて善良海外へ輸出する噸數亦莫大の額なりと云ふ

鐵道線路は東方後志國高島郡手宮より起り朝里錢函を過ぎ石狩國札幌郡を経て空知郡に至り岩見澤驛を三叉に別れ一は南して夕張炭山に至り室蘭鐵道と連續し一は西して幌内太に至り兩岐に別れ幌内炭山及び郁春別炭山に至り止まる又一は西北の方向にて砂川に至り別れて歌志内及び空知太に至る石炭積列車は通常一日五回乃至六回

の往復を爲せども乗客列車は僅々三回の往復にて殊に札幌以西は二回に過ぎず

札幌停車場は北六條西三丁目五丁目とに跨り乗客待合所は上中等合併にて一室下等室一室あり發着時間には上下の乗客羣々擾々雜沓謂はん方なし貨物筵包行李等場内に堆く炭礦鐵道線路中尤も繁盛なり昨年中札幌停車場より乗車したる人員上中下等合して九万五千五百七十八員賃錢二万八千六百八十六圓餘なり云ふ亦以て其一班を窺ふに足るべし

北海道製麻會社は北七條東一丁目に在り亞麻紡績を業とす資本金八十万圓全道中著名の大會社なり工場は舊官庫を拂下げたるものにして煉瓦造の倉庫十數棟あり建築宏壯外觀尤も美なり
札幌製糖會社も亦著名の大會社にして札幌區の東北隅なる苗穂村に在り其建築は煉瓦石を以て疊み規模宏大にして資本金八十萬圓なり

昨年來株券偽造のため失體を極め大に信用を墮し久しく拂込額（三十一圓）十分の一に低落せしが近頃會社と債權者との間折合附き製糖材料の甜菜植附反別をも増加し會計も殆んど整理するに至り營業の目的確立したるか故に株券の價額も日に増し騰貴し來りたれば其好結果を呈するの日當に近にあるべし

札幌麥酒會社は北二條東四丁目に在り資本金七万圓通常麥酒及び黒麥酒を醸造す獨逸人某の監督する所なり毎年一千石以上を醸造し漸次器械にも改良を加へ業務隆盛に趣けり麥酒は通常札幌麥酒又はラ

ーガル麥酒と稱し品質佳良頗る本邦人の嗜好に適せり
興産社は北五條西十四丁目に在り資本金五万圓専ら製藍を業とし盛

に内地に輸出す其品質極め又善良なりと云ふ
北海道電燈會社は資本金十六万圓にて大通西三丁目に在り目下札幌

人士も電燈の効用顯著なるを知り商家などは競ふて點燈するに至り

たれば社連目を逐て隆盛に赴けり
此他資本金五万圓以下の諸工業製造會社數多ありて烟突天を刺し黒烟縹々絶ゆるの隙なし彼の黒烟焰々日光爲めに暗してふ英京倫頓の光景を演ずるの日亦近きに在りと云ふも蓋し隘美にあらざるなり
會社及び製造所の著名のもの左に列擧せん

札幌製粉場（大通東二丁目）

農具製作場（大通東四丁目）

札幌活版印刷所（大通西三丁目）

日本土木會社出張所（大通東一丁目）

内外用達會社出張所（大通東一丁目）

水車機械場（北二條東三丁目）

安田機械場（北二條東三丁目）

札幌製絲場（北二條東三丁目）

- 製網場 (北二條東三丁目)
- 花麥葡萄酒釀造場 (北三條東三丁目)
- 滿留八商店 (北四條西三丁目)
- 精米場 (北六條西一丁目)
- 精米場 (北五條東二丁目)
- 東京文昌堂活版所札幌出張所 (南三條東二丁目)
- 北鳴館活版所 (南一條西三丁目)
- 高田商會代理店 (南一條西四丁目)
- 北海道共同商會支店 (南一條西二丁目)
- 内國通運會社札幌出張所 (南二條西一丁目)
- 水田會社 (南三條東三丁目)
- 北海商會 (南四條西一丁目)

○第十一 協會俱樂部及ひ新聞社

札幌區内協會及ひ俱樂部數多ありて何れも親睦を旨とし或は知識を交換し或は公共の利益の爲に運動せり協會中雜誌を發行するものもあり今其著名のものを左に列擧せん

- 札幌讀書會 (大通西五丁目)
- 衛生講話會 (大通西一丁目豊平館内)
- 北海道醫事講談會 (北三條東三丁目)
- 北水協會 (北三條西七丁目)
- 勸農協會 (北五條西七丁目)
- 北海道蠶絲協會 (大通東一丁目)
- 北海俱樂部 (大通西三丁目)
- 北海道經濟會 (大通西三丁目)
- 札幌青年農談會 (札幌農學校内)
- 英學協會 (同上)

博物學會 (札幌農學校内)

借行社 (北一條西二丁目)

鳳鳴館 (北一條西六丁目)

立誠同盟會 (南一條西二丁目)

北海道大和會 (南一條西二丁目)

北海道學友會 (南二條西三丁目)

札幌衛生會 (札幌區役所内)

北海禁酒會 (南三條西二丁目)

愛國青年會 (南一條西七丁目)

共同競馬會 (南二條西二丁目)

北海音樂會 (北水協會内)

札幌婦人慈善會 (南三條西二丁目)

札幌佛教青年會 (南三條西一丁目)

札幌基督教會 (南三條西六丁目)

札幌基督教徒青年會 (南三條西六丁目)

札幌商業俱樂部 (南四條西三丁目)

札幌に於ける新聞社あり六を北門新報社(大通西三丁目)と稱し他を北海

道毎日新聞社(大通西二丁目北側)と稱す共に日刊新聞を發行し競て

本道に關する殖産興業拓地等の事に關し銳意熱心に論及し其他社會

萬般の事物狀態を報道し大に本道の爲めに盡力せり

○第十二 遊園地

中島遊園地は札幌區の南端に在り東方軟草の原野を距て、豊平川を控へ西方藻巖山を負ふ廣袤方三町許園は長方形にして北西に三南西に一口を闢きて路を通ず老樹蒼蔚閑雅幽邃の地たり近來に至り櫻楓を栽植したりも若木なれど東風脈を花信を報する時は區民群を爲

して彼處に集合し此處に團樂を雅客は閑靜の地を撰んで提籃を傾け
 俗人僮夫は櫻花爛熳なるを愛して行厨の底を果て其狀東京の上野公
 園に彷彿たり夏季炎熱熾なる時は閑人遊子の跡を枉げ縁陰深き處涼
 を納るゝ者亦寡ならず實に當區第壹の遊園地なれば園の北方は池あり
 水清く波靜に喬樹矮木其周圍を榮繞す池中割烹店二あり曰く大中支
 店曰く東京庵支店與に即席料理を調進し春夏の候粹士嫖客の遊ぶ者
 甚た多し池を過ぎ南方木造の洋館あり協賛會の設置せしものにて品
 評會共進會等を當區にて開設する時は常に此建物を使用す本年八月
 開設の北海道物産共進會場も此建物を以て其本館とせし建物の前を
 横ざり猶南すれば一大競馬場あり共同競馬會の會場にして毎年札幌
 神社の祭日及び八月三日の屯田兵招魂祭日には必らず競馬會を催し
 七八回の競走と五六の番外競走などありて當日は非常の賑なり
 借樂園は北七條の西端に在り明治四年開拓判官岩村氏の設計せし所

なり當時は博物館競馬場育種場等も此園内に在りて頗る人足を引き
 た故に開拓使の癡せむるゝと同時に育種場も癡せられ競馬場は中
 島遊園地の南隅に移轉し博物館を亦三條に遷りたれば借樂園の區域
 境界も大に縮少し近時は只借樂亭及び清華亭の存するのみ左れを建
 築の當時莫大の金錢を惜まざ煥工せしものなれば今猶舊時の美觀を
 備や老樹の間大に風雅の趣味あり殊に園内琴似川の源泉ありて借樂
 園の池水より流出し軟草兩岸を涇め老樹古桂參差として洞窟に翳さ
 夏時に至れば半層の風致を流し
 或園山境內遊園地は南六條西四丁目に在り平時は寂寥にして且人目
 遠くはするもの絶然有るも毎年七月十日至十月六日に於て遊園地
 秋田南部津輕等諸國の盆踊りや頗る雜沓を極むるものありて士人の

第三十二 博物館
 博物館は北三條西水町に在り札幌農學校に附屬し毎年正月より五月

に區劃せられ洋風の旅宿を兼業とする。東京庵は類焼後北七條借樂園に移轉し會席料理店の牛耳を執る待遇町噺料理亦頗る美なり内抱藝妓七名ありて媚を献し設を呈し辯士遊郎の至るを待つ三絃の聲踏舞の音喧々擾々實に不景氣知らずの別天地を造出せり支店を中島遊園地及び南三條西二丁目に設け料理の傍ら蕎麥をも調進す諸事東京風にて輕便を旨とす

此他東壽司(大通西二丁目)大中(薄野遊廓内)大中支店(中島遊園地)開運樓(南四條西二丁目)東壽司支店(南三條西二丁目)桃李亭(南四條西二丁目)小稻樓(南四條西二丁目)東海樓(大通西二丁目)等ありて概ね内藝妓を抱へ妍婉たる玉貌婀娜たる風姿もて騷人を蕩かし俗客を驚かしも是を以て何れの割烹店も不景氣知らずの大繁昌樓主を始め樓婢に至るまで常に媽を然たりと云ふ。余左に區内校書東名望科流行科技藝科美貌科の優等生を掲げ出さぬ

薄野見番藝妓(さめ壽、小蝶、さよ、すみ、八、染吉、小三、小竹、小濱、福、小勝、加津、小芳)

東京庵抱(三吉、桃太郎、小ノ、つや、小千代、い、五良の次、六の次)東壽司抱(小貞、小梅、婦久)開運樓大中其他各料理店抱(駒治、若吉、小春、万吉、小仙、小鶴、美代、梅吉、榮吉)

此他數十の校書ありて輕羅香塵を扇へし各競ふて腕を磨き爪を研ぎ情性大盡や鼻下長野郎の異に入るを待つ左れど中にも財力や威權にて應と謂はぬ俠客質の者ありと聞けど暗淡場裡鼠鳴の怪談に熟達せる者多しと云ふ

狸小路雨垂小路等に數多の小料理店ありて夜に入れば何れも繁昌せり此等料理店は概ね白首の巢窟にして夕景より白粉巨手塗の怪物格子内に端座心格も宿場女郎の如き風情にて涎液を垂もて覗き込む粘

夫翁翁を捕へ木聲呼ばせ目の壯夫入れ翁翁來れ吾汝と念を同ふせ
夜既に酣なり請ふ半圓錢を投せよと既にじて談判調ひ手を執て客を
暗淡室中引牽き行くと這般の狀態編者の知る所にあらず
○附言内藝妓線香一本二十錢見番二十五錢

○第十六

劇場

札幌は晩春より夏期の終る頃までは日中は東泉園や博物館及び中島
遊園地等へ觀花散策がてら出掛る者多きも夜に入れば定席の寄席も
悉く格別氣散の手段なき故劇場は随分大入り叶ふ殊に冬向は何れも
目を樂ましむるものなき場所柄なれば何時も人氣立ち毎夜二三百以
上の見物人ありと云ふ區内に二劇場ありしか本年五月の大火に一つ
は類焼せし故今は只薄野に大黒座あるのみ年が年中夜芝居のみ興行
を狂言外題は大抵三四日自にて取替ふ本戸錢概ね八錢内外土間は悉
皆追込にて棧敷二間買切茶菓子附にて七十五錢位なり左れと當地は
東京及び大坂邊の劇場と異なり仲茶屋なるものなければ辨當酒肴な
どは自宅より携帶する方便利なり幕間には壽司菓子茶など賣行くも
價極めて不廉なり役者は所謂田舎千兩にて舉動も割合に能く利けり
座頭中村鼻鶴以下中村梅鶴岩井小若市川五鶴中村翫二郎岩井大和其
他數名の俳優ありて何れも評判よく纏頭引幕職など其々の最負より
相應の實入を得ると云ふ

○第十七

遊廊

南五條西三丁目及び四丁目との間を薄野と稱し當區の遊廊地なり樓
々の傾城多くは雪の肌の本場所南部津輕及び新潟邊の培養にて嬋妍
たる容貌濃厚たる妙味能く粹士遊客を盪すに足る當時尤も昌盛なる
妓樓を昇月北海花月長谷川昇星岡田榮輝の七樓とす所謂中等貸座敷

なるものなり御極大枚一圓五十錢御開以後敵婦の請求を拒絶せざれば菓子代などにて一夜の春夢二圓以上水泡と立消べし藝妓呼べの號令下り大盡氣取て口に適ふ肴を運へとか大坂酒の上等を持來れなど意張り散らかし有頂天の底拔騒は又別價と知るべし二等貸座敷は翁眞開、仙遊、青葉、豊水、明月、千代喜、小柳等の諸樓にしては極は一圓なれども代蠟茶菓子など結局一圓五十錢餘の散財と知るべし此他安價散財如何様可成御安直にチヨイト旦那御上りなさいましへへへ

この妓夫の諷笑に四十錢より卑からず六十錢より貴からざる枕價を定め登樓し得べき三等貸座敷十數軒あり
札幌には引手茶屋としては一軒もなければ一等貸座敷とてもぶっつけ登樓するなり一等より三等迄の遊女總數二百有餘人夕曛既よ収り暮露四望を罩め燈火を點するの頃各樓皆彩燈を掲げ或は電燈を點し遊女は裝飾を終へて店頭に列座して春色を競へる様彼の春宵一刻價手

金仙洞の夜景も斯くありなれど想像せらる實に不夜城の熱鬧場なり露を帯るの櫻花雨に濕ふ海棠風に揺らるゝ楊柳霜に腦める燕子花朝に百金を費す豪商を迎へ夕に千錢を擲す嫖客を送る全盛狹斜に鳴る遊君を左に列記せん

昇身樓(八重菊、のぶ、きみ、つな、つね、はた、吉枝)

北海樓(みや、なを、とみ、のぶ、ふか)

花月樓(花月、小糸、とき、小菊)

長谷川樓(住の井、白露、小春、旭、雪江)

昇星樓(今泉、瀬川、きん)

岡田樓(よし、みさ、ささ、ろよ)

榮輝樓(貞江、みず、たけ、さち代)

翁樓(初江、操、ゆき、はま)

仙遊樓(小櫻、やす、初江)

青葉樓(まさやす)
真開樓(はな、千代鶴)
明月樓(小鶴、友鶴、操)
千代喜樓(みな、こと)

○第十八 旅人宿

旅店中著名なるを山形屋(北二條西四丁目大竹敬助)旭館(北二條西四丁目稻川直義)京華樓(北七條西二丁目森谷つる)及び北京樓(南一條東一丁目田村金藏)等とす家構料理待遇等何れも優劣なく鄭重親切を旨とせり此他左記する數十の旅店ありて皆盛大に營業せり宿泊料上等五十錢晝餐廿錢中等四十錢晝餐十五錢下等三十錢晝餐十五錢なり

鈴木市五郎 南一條西二丁目

山下 源作 南三條西二丁目

相澤 伊作 南四條東二丁目

清野 文三 南三條西二丁目

小野 又三 南三條西二丁目

渡邊 一太 南三條西二丁目

今泉 榮吉 南三條東二丁目

岡崎喜七郎 南四條東二丁目

佐々木龜吉 南三條東三丁目

西村 爲治 南一條西五丁目

建部 藤吉 南一條西三丁目

上田 長作 南四條東三丁目

山口善五郎 南三條西二丁目

中嶋伊太郎 南三條西二丁目

佐々木又之	南三條西二丁目
福光 保吉	南四條西一丁目
森田 一	南一條西五丁目
須合 和吉	南一條西五丁目
平本 彌逸	南一條西二丁目
細川勘次郎	南二條西二丁目
田中孫太郎	南三條東二丁目
水越 次	南二條西二丁目
松田屋五郎	南五條東三丁目
清水 繁	南三條西一丁目
村上彌之吉	南二條東二丁目

○第十九

諸物價

當地の物價は内地に比すれば幾分が高貴なり蓋し新開の殖民地にし

て拓地殖民の業甚だ旺盛なれば土木工事に従事する出稼人其他漁場出稼人等は金錢の彼等の懐裡に入るや所謂夜越の錢は使用せぬてふ東京肌にて湯水の如く盪盡すると商業活潑にして利潤の大なる等の原因より諸品も從て高直になるべし今左に諸種の物價表を記載せん

- 白米一俵(四斗入)極上等三圓五十錢
- 薪一敷(長さ二尺の太薪を高さ五尺長さ六尺に積たるを一敷と云ふ)八十五錢内外
- 炭一俵(才貫目入)二十錢内外
- 鳥肉一斤三十錢内外
- 牛肉一斤二十錢内外
- テツクネ(鰯の一種)長さ一尺位のもの十錢に就き冬季は三四尾夏期は一尾位
- 鰯鮭(極大の物)一尾十二三錢

○酒(大坂上等酒)一升五十錢以下三十錢以上

(大山酒) 一升三十錢以下二十二錢以上

(地酒) 一升十八錢以下十錢以上

○湯 錢 一錢五厘

○斬髮代 八錢以上十五錢以下

○髭剃料 三錢以上八錢以下

○洗濯 シャツ三錢位單物四五錢裕衣八錢綿入十二錢

此他醬油味噌等は内地と異なることなく青物類は概して高價なり殊に高直なるは人力車にて區内は十錢乃至二十五錢までにして僅か一二町乗車するも亦十錢を請求し決して五錢とか六錢とか云ふの車賃なし

○第二十 農商工賃錢

北海道の農商工賃錢は非常に高直なるも當札幌は這般の稼入割合に

數多きか故に函館根室等に比すれば概して廉價なり

養蠶業 一日賃錢 二十五錢

大工職 全 四十五錢

左官職 全 四十錢

石工職 全 六十錢

木挽職 全 四十五錢

家根職 全 四十錢

疊刺職 全 四十錢

建具職 全 四十五錢

鍛冶職 全 四十錢

下男 一ヶ月給料 三圓五十錢

下女全

札幌案内終

一圓五十錢

四十二



酒物足煙脚利安洋會靴
 米雜洋貨服任和洋日
 帽箱品織物服任和洋日
 小洋西料品洋太物洋日
 類物洋貨品洋太物洋日

大
 石田支店

札幌南一條西三丁目一番地

謹白

下女全
札幌案内終

一圓五十錢

廣告

藤店

旭館

札幌北二條西四丁目
北海道廳表門角
稻川直養

製良純國西瑞
告廣クルミ

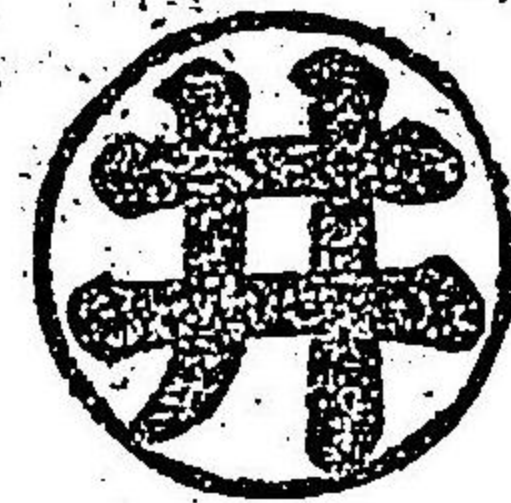


佛國金賞牌

千八百七拾八年

此ニハ先年佛國大博覽會ニ於テ金賞牌ヲ受領シテ見テモ其品質ノ精良超絶ナルヲ證スルニ足ル可シ故ニ近年我國ニ於テモ大ニ此みるクノ用者ヲ増シ就中東京及横濱ノ如キハ各大醫ノ誘ニ因リ貴孺縉兒ノ愛用日増ニ盛大ナルヲ實ニ今回弊店ニ於テ特約大販賣仕候間（實地良口ニテ殊ニ廉價ナリ）是非一度御試験ノ上陸續御用向被仰付度謹告仕候也

札幌區南一條西二丁目

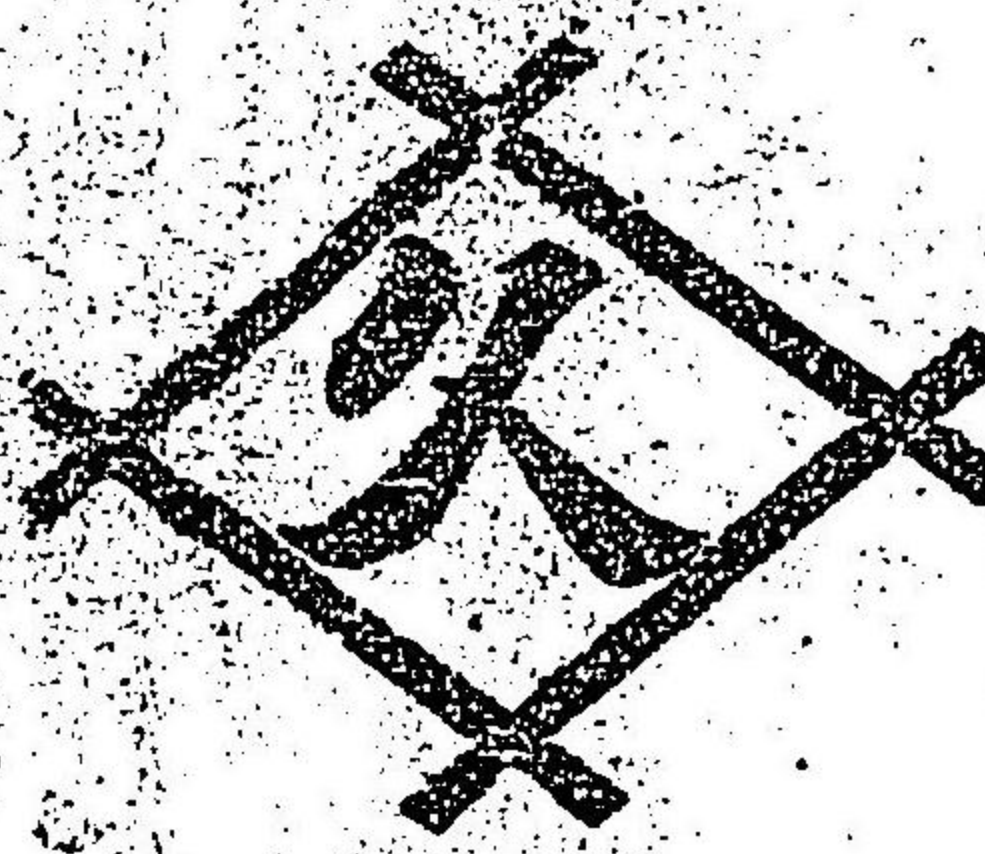


今井洋物店

U-34

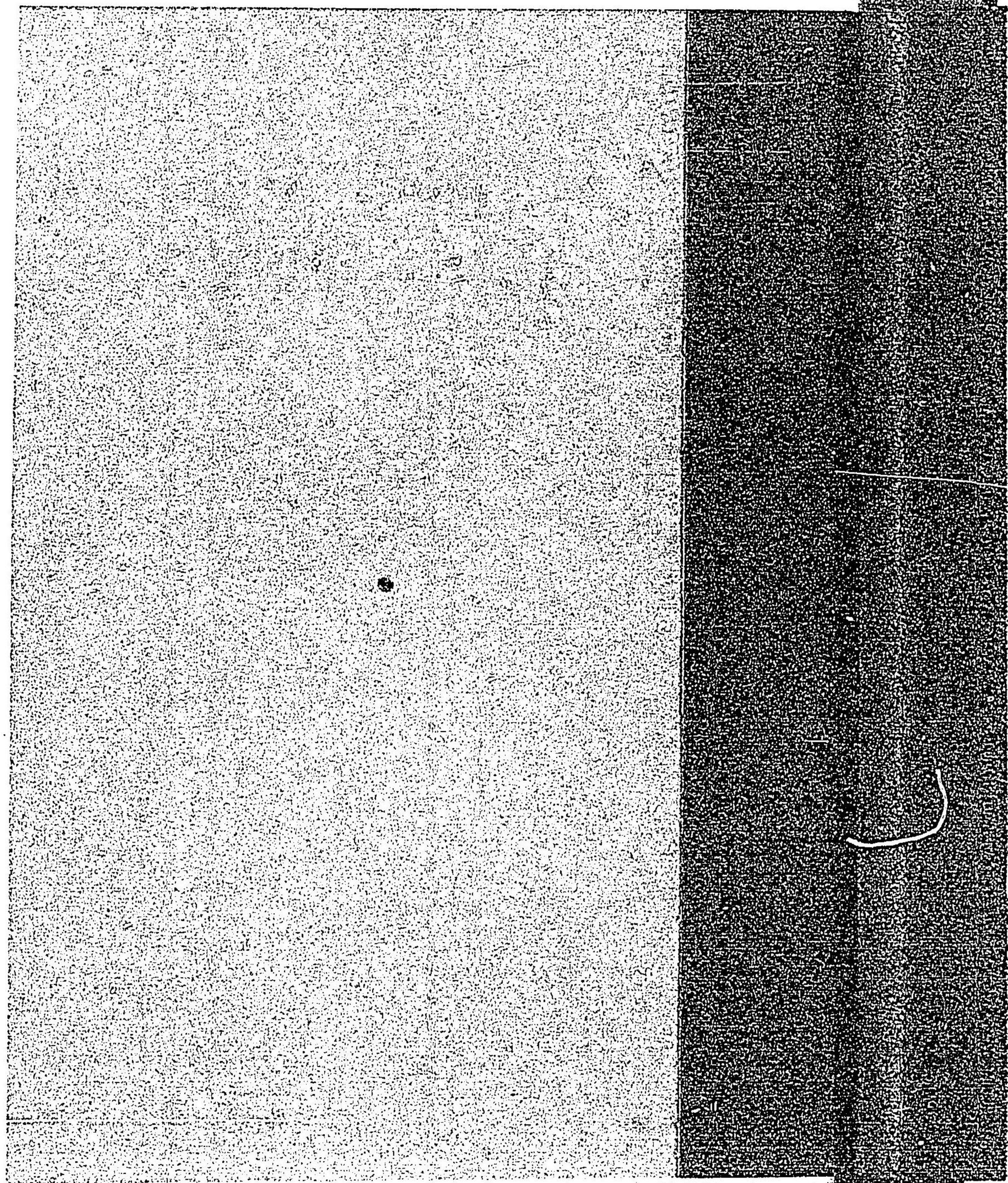
尾張物産

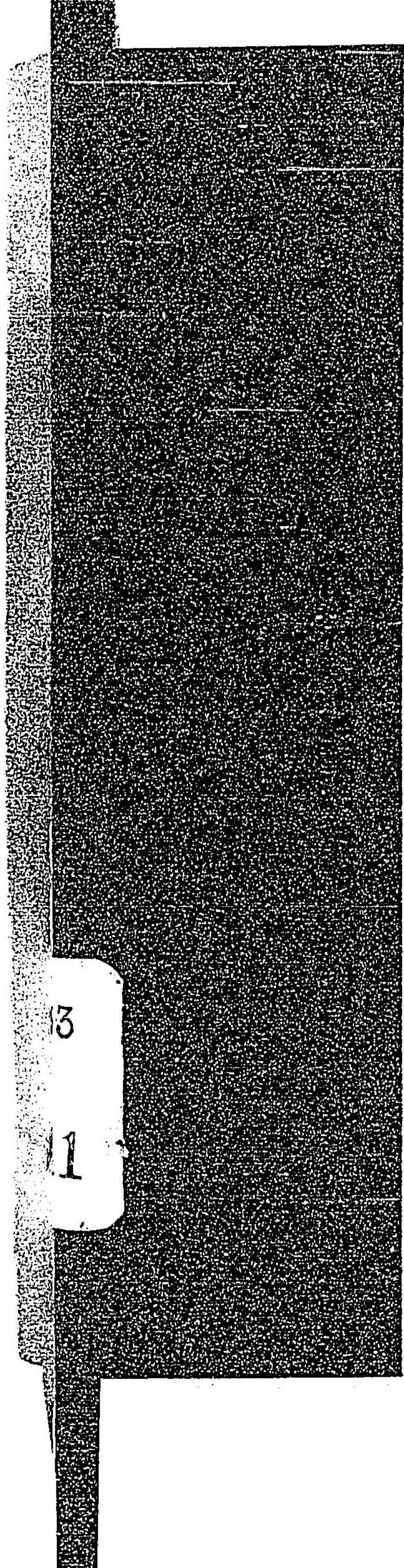
雜貨數品
廉價販賣



南三條西二丁目
三番地
井久屋

白魚紅梅羹	鯛力羹	みすや針	元結	塗箸	摺付木	手拭地	晒木綿	鳴海絞	古代模様更紗	愛知物産織
熨斗水引	朱黒肉	算面	高木水筆	色紙短冊	和洋文房具	諸帳簿	諸野紙	襖引手類	襖紙各種	和洋紙類
メートル	シウエキ	水平器	濕氣計	酒實氣檢計	養蚕計	酒暖計	湯暖計	火暖計	晴雨計	寒暖計





3

1